

豊中市「学びの多様化学校」の開校に向けて



豊中市
2025年8月

公立の「学びの多様化学校」の役割と目的 ～学校だからこそ得られる学びを～

コロナ禍以降、不登校児童生徒数の増加が顕著

学校に行きたくても行けない子ども

公教育の責務として選択肢の拡大

在籍校への復帰以外の不登校支援

公立の「学びの多様化学校」の開校

- ・人との関わりや社会とのつながりを、学校生活で学ぶ
- ・集団生活の中で、自分の個性や成長を実感する

不登校を繰り返さないための新たなアプローチ

学校に行きたくても行けない子どもたちに、
教育と福祉の両方の観点から寄り添う学校づくり

国の動き

学びの多様化学校の設置について

※「誰一人取り残されない学びの保障に向けた
不登校対策(COCOLOプラン)」
(令和5年(2023年)3月 文部科学省)

不登校時の学習について

※「不登校の要因分析に関する調査研究」
(令和6年(2024年)3月 文部科学省委託)

学校復帰のみを前提としない多様な支援

※「不登校・ひきこもりのこども支援に
関する政策評価」
(令和5年(2023年)7月総務省
(文部科学省宛て通知))

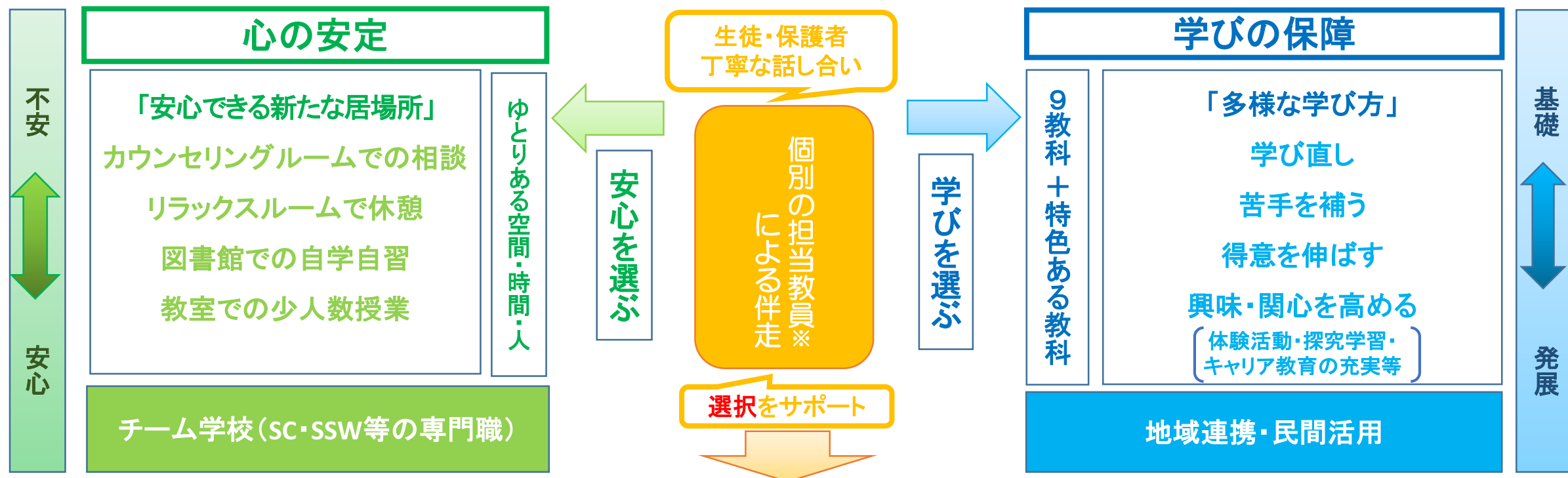
市内公立学校へのフィードバック

市全体で、不登校支援の取組みをより一層充実させていく

豊中市の「学びの多様化学校」 ～子どもたちの意思を大切に～

学ぶ意思があり、登校できる心のエネルギーのある生徒への「新しい選択肢」

生徒が、学ぶ「場所」・「内容」・「方法」を、自ら考えて決定



なかまとともに、なりたい自分へ(次のステージへ)

「夢や希望をもって力強く生き、社会の担い手としての自立」

※個別の担当教員：

1学級に1人の担任を配置するのではなく、
より少人数ごとに担任を配置するもの。

豊中市の「学びの多様化学校」 ～ゆとりある空間・時間・人間関係～

「空間」 落ち着ける空間

- ・少人数での対話や協働が可能な教室
- ・普通教室以外の学習スペース
- ・リラックスできる空間 など



ゆとりあるHR教室のイメージ

「時間」 ゆとりある時間

- ・体調に合わせた登校や下校の時間
- ・1日の授業時間は4～5時間
- ・学習の進度や状況に応じた学習時間の確保

時程案

始業前	8:45～9:40
ホームルーム	9:40～9:55
1時間目	10:00～10:45
2時間目	10:55～11:40
3時間目	11:50～12:35
昼休み	12:35～13:25
4時間目	13:25～14:10
(5時間目)	(14:20～15:05)
ホームルーム	14:10～14:25 (15:05～15:20)
放課後	14:25～17:15

「人」 安心できる人間関係

- ・担当教員による個に応じた伴走
- ・福祉等の専門職に相談しやすい環境
- ・関係機関との密な連携



個別学習スペースを設けた図書館のイメージ

1. 基本構想（令和6年12月策定）

1 豊中市の不登校の児童生徒の現状と傾向

- 令和5年度（2023年度）には1,020人（児童423人 生徒597人）で、平成30年度（2018年度）の360人（児童124人 生徒236人）の約3倍に増加
- 新たに不登校状態となる生徒は、中学1年生で急増しており、中学2,3年生においては、継続の割合が増加し、中学校の不登校は継続、長期化する傾向
- 豊中市の不登校の子どもの中にも「なぜ自分が学校に行けないのかその理由が自分でもよくわからない」「理由はわからないが、なぜか集団の中に入れない」と自分でもはっきりとしない悩みを抱えている子どもの意見がある

3 豊中市が創る「学びの多様化学校」

〈設置の目的〉

- ✓ 在籍校に通えないことで、学習の機会が十分でない生徒への新たな学習の場
- ✓ 生活習慣の安定や学習意欲の定着
- ✓ 夢や希望をもって力強く生き、社会の担い手としての自立

〈基本姿勢〉

子どもたちの『意思』を大切に！！

- ◇生徒が、学ぶ場所を自ら考えて決定する
- ◇生徒が、学ぶ内容を自ら考えて決定する
- ◇生徒が、学ぶ方法を自ら考えて決定する

〈特徴〉

- ☆安心して学べる「新たな学びの場」
- ☆特色あるカリキュラムで個々に応じた学びの実現
- ☆「学ぶ」と「働く」をつなぎ、「なりたい自分」をさがす・めざす
- ☆地域のみなさまに温かく見守られ、育まれる「生きる力」

2 豊中市の不登校（居場所）支援の柱

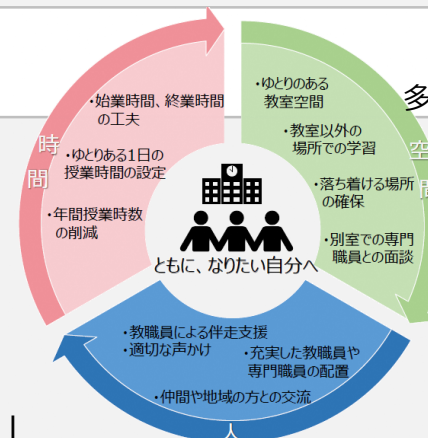
- 1次支援…チーム学校の対応力強化、早期発見・早期対応
- 2次支援…校内での居場所づくり、家庭への働きかけ
児童生徒の学習状況に応じた指導
- 3次支援…学びの多様化学校設置
フリースクール・児童生徒育成拠点との連携
- 4次支援…相談、登館（創造活動・学習支援事業・
学校支援活動）の援助
家庭訪問による社会とのつながり
- セーフティネット…中学校卒業前後の支援期間

1 次支援
＜行き渋りを生み出さない＞

2 次支援
＜不登校の未然防止＞

3 次支援
＜切れ目のない
学びの提供＞

4 次支援
＜学校と家庭の中間的な
居場所の提供＞



〈校種〉 豊中市立中学校

〈設置場所〉 市立島田小学校閉校後の施設活用

〈開校時期〉 令和9年(2027年)4月 開校予定

〈生徒数〉 1学年あたり20～25人

〈学級数〉 3学級

〈対象生徒〉 豊中市内に住所を有し、豊中市立学校に在籍し、不登校または不登校傾向にあり、学びの多様化学校への登校意欲がある生徒

2. 学校運営に関すること

検討・調整 事項

① 校名について

- ・市内学校（児童生徒、保護者、教職員）に対して校名案を募集します。
- ・募集期間：令和7年(2025年)7月1日～7月31日の一か月間
- ・応募結果を参考に、令和7年度(2025年度)末に校名を決定します。

② 校歌・校章について

- ・校章及び校歌の作成については、令和9年(2027年)4月の開校後に、生徒や教職員とともに検討を行う予定です。

③ 通学手段について

- ・原則、徒歩または、公共交通機関を利用



「学びの多様化学校」の外観イメージ